

ギリシア神話

監修 吉田敦彦
学習院大学教授

不和の神

エリスが

投げこんだ黄金の

りんごをめくつて

三人の女神が争いました。

なぜならそこには

「いちばん美しい女神へ」

と書かれていたからです。

そして美の判定者に選ばれたのは

トロイアの王子パリスでした。

パリスは世界で美しい女性を

妻にできると聞かされ、

愛と美の女神アフロディテを

いちばんに選びます。

しかしこのパリスの審判は

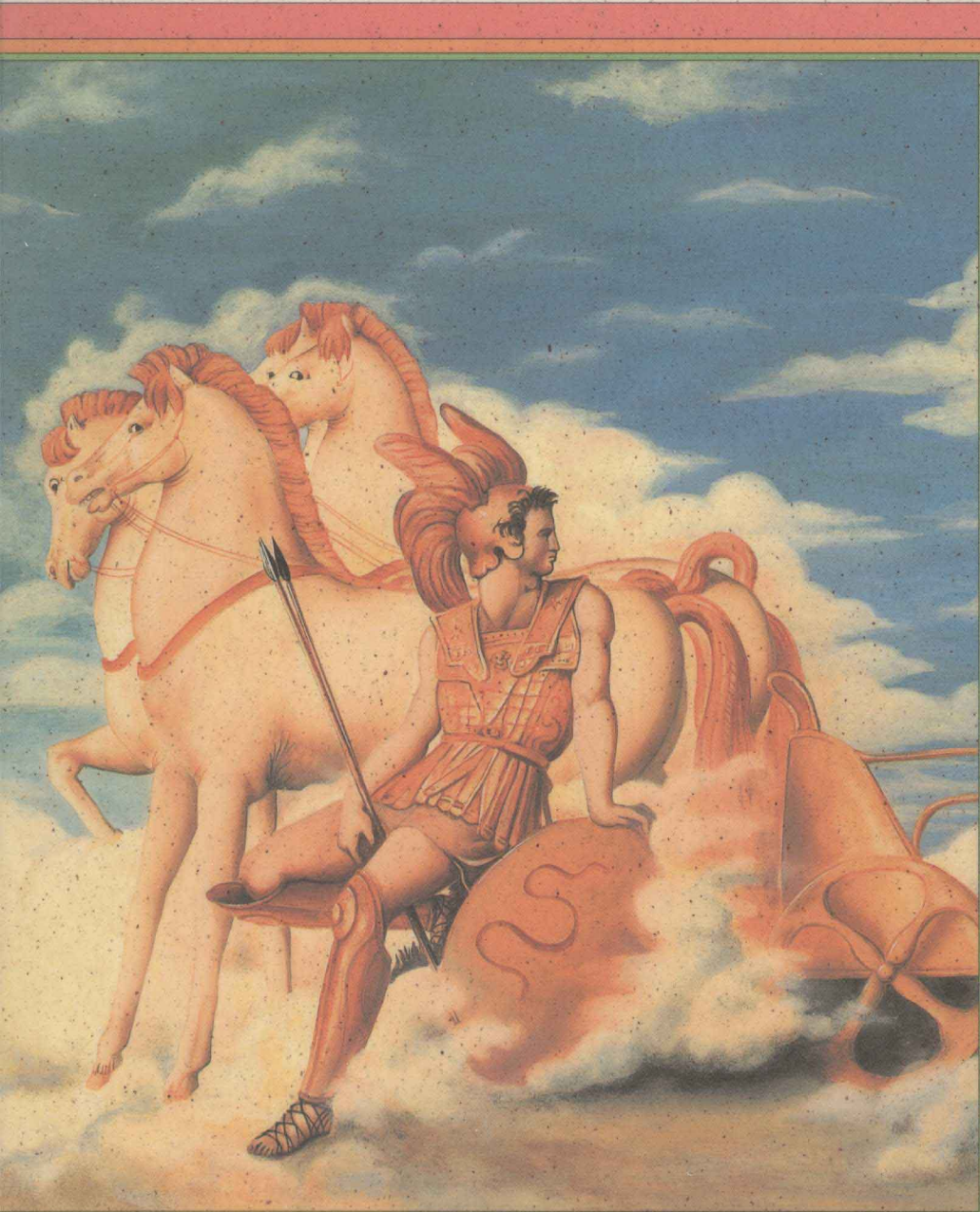
のちに〇年にもわたる

トロイア戦争を引き起す

ことになるのです。



トロイア戦争



まんがギリシア神話 第9巻

トロイア戦争

監修／吉田敦彦（学習院大学教授）

指導協力／藤井常義（サンシャインプラネタリウム館長）

シナリオ／亜仁真 作画／阿部高明

作画協力／手塚プロダクション

カバーイラスト／クリエイティブアートリュウ

装丁・本文レイアウト／海野幸裕

図版／E出版社

写真協力／オリオンプレス

サンセット

美宝社

平凡社フォトライブラリー

ワールドフォト・サービス

編集協力／株式会社 童夢

1992年7月31日 初版発行

定価2000円（本体1942円）送料310円

発行所／株式会社 きょうせい

本社／〒104東京都中央区銀座7-4-12

営業所／〒162東京都新宿区西五軒町4-2

電話 03-3268-2141（大代表）

振替口座 東京4-10,000番

印刷／凸版印刷株式会社

製本／大口製本印刷株式会社

©1992 Printed in Japan

ISBN4-324-02834-6

(3100319-01-009)

乱丁・落丁本はおとりかえいたします。

神話と美術



◆レダと白鳥／レオナルド・ダ・
ビンチによるソドマ派

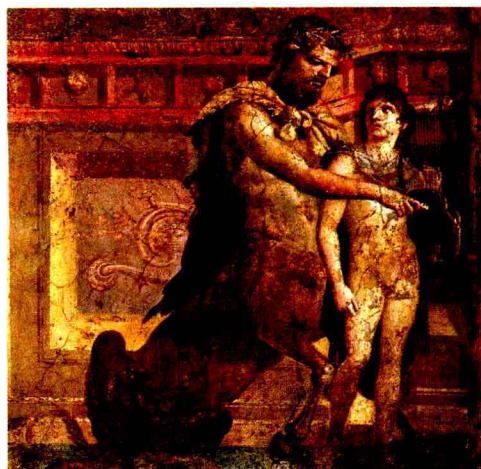
スパルタの王妃レダの美しさに目をとめた大神ゼウスは、白鳥の姿に変身して、彼女を誘惑しました。そしてレダから、絶世の美女ヘレネが、生まれるのです。

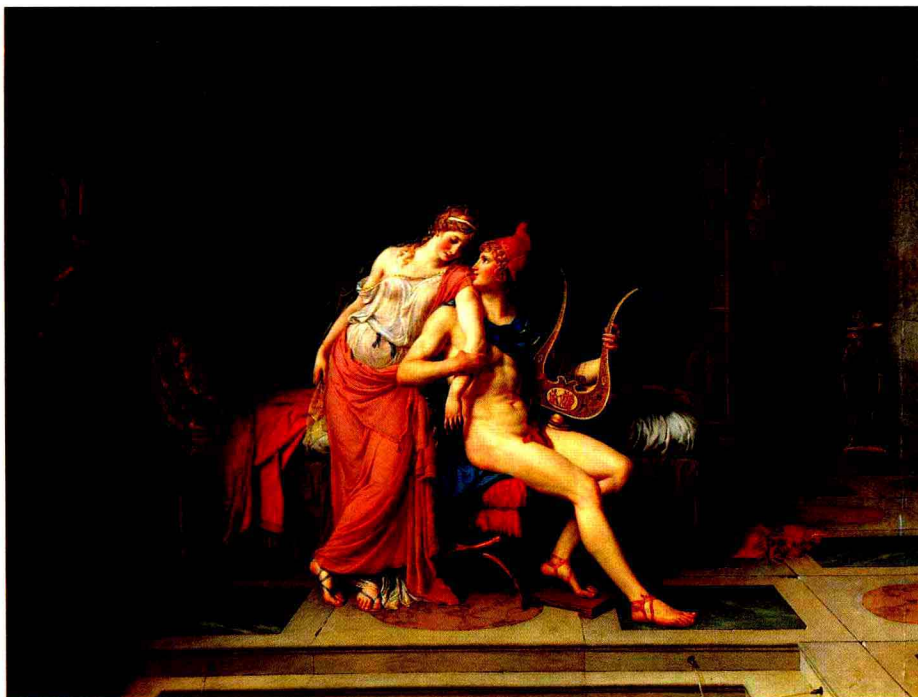
この話は多くの芸術家が主題にとりあげ、おなじ題名の作品が何種類も残っています。



◆少年のアキレウスに堅夢を教えるケイロン

フティアの王ペレウスは、息子アキレウスを、半人半馬のケンタウロス族の賢者ケイロンに預けます。ケイロンは快くアキレウスの養育を承知し、彼をギリシア一の勇者に育てあげました。アキレウスはそのうち、トロイア戦争で大活躍することになるのです。





◆パリスの審判／ルーベンス

トロイアの王子パリスは、三人の女神の美の判定者選ばれます。その三人とは、大神ゼウスのきさきへう、知恵と戦争の女神アテナ、愛と美の女神アフロディテでした。

ヘラのそばには、彼女の愛したくじやくがあり、アテナはかたわらに武器を置いています。そしてアフロディテの後ろには、愛の神エロスがいます。このように、神話や文学を主題にした絵画は、多くの場合、作品のなかの人物がだれであるかが、わかるようにえがかれています。

◆パリスとヘレネの愛／ダビッド

世界一美しい女性を妻にできると信じたトロイア王子パリスは、スパルタ王妃のヘレネを誘惑しました。彼は女神アフロディテの助けを借りて、見事ヘレネを妻にすることは成功しますが、この事件がトロイア戦争を引き起こすことになるのです。



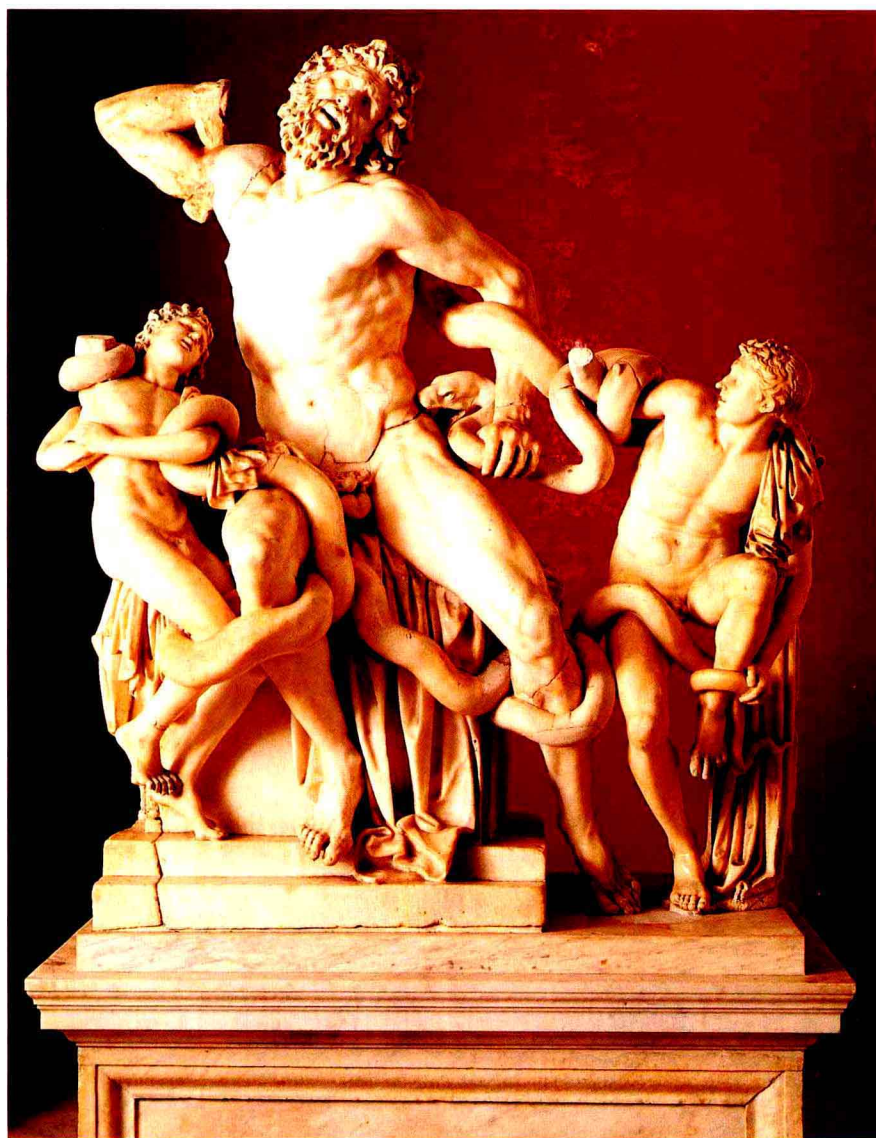
◆いけにえにささげられようとするイビゲネイア

ギリシア連合軍は、ミューケナイ王アガメムノンの指揮のもと、トロイアへ遠征に出かけようとしていました。しかしアガメムノンが女神アルテミスを怒らせてしまったために、順風が吹きません。仕方なくアガメムノンは、娘のイビゲネイアをアルテミスへのいけにえとして、ささげることを選んだのです。



◆将棋をさすアキレウスとアイアス

トロイア戦争中、ギリシア一の勇者であったアキレウスと、彼に次ぐ武者アイアスをえがいた陶画です。人物の上にその名が書かれており、左がアキレウス、右がアイアスであることがわかります。英雄たちのよい細い模様は、錐を使った掻き落しという手法によっています。



◆ラオコオン群像

ギリシア軍は、トロイアの城を攻めあぐね、大きな木馬を残して姿を消してしまいます。トロイアの人は安心しきって、木馬を城内に入れようとしていますが、神官ラオコオンは、それに反対します。しかし彼は突然、

海蛇におそわれ、息子共ども殺されてしまったのでした。この像は海蛇におそわれた時のラオコオンの姿で、ローマの遺跡から発見されました。そしてラオコオンの苦しい様子をよく表し、古代彫刻の傑作といわれています。

まんが ギリシア神話

トロイア戦争

9

シナリオ/亜仁真
作画/阿部高明



はじめに

ギリシア神話とか、ギリシア・ローマ神話とよばれている、たくさんのおもしろい物語があることを、あなた方は、きっともう、どこかで聞か読むかしてごぞんじでしょう。黄金の光でまぶしくかがやく美青年のアポロン神や、海に浮かぶあわのなかで誕生した美の女神アフロデイトなど、多くの神様たち、また、怪力で乱暴なところもあるヘラクレスや、勇猛果敢なアキレウスなど、大勢の英雄たちが出てきて、さまざまな不思議な冒険や恋、戦争などで活躍をします。そしてこれらの物語のもとになった話は、今から二〇〇〇年以上も前に、古代のギリシア人が語っていたものでした。

今から二四〇〇年から二五〇〇年くらい前に、ギリシア人たちは、文学や美術をはじめとする学問や、技術など、すべての点で今のヨーロッパやアメリカの文化のもとになった、本当にすばらしい文化を作り上げました。それを、「ギリシアの奇跡」とよんだ人もいます。

この古代ギリシア文化は、今から二三〇〇年くらい前に、有名なアレクサンドロス大王がした遠征によって、今のトルコやエジプト、イスラエル、シリア、レバノンから、イラク、イラン、アフガニスタン、パキスタンなどにまでまたがる、広い地域に伝えられました。そしてその文化は、今から二〇〇〇年くらい前にローマ帝国を作った、古代のローマ人たちにも、そっくりそのまま受けつがれたのです。

古代のローマ人が使っていた言葉は、ラテン語といって、ギリシア語とは別の言葉でした。しかしローマ人たちは、ギリシアの文化

のすばらしさにあこがれて、その魅力^{みりき}のとりこになりました。そしてローマ人たちは、美術や文学、哲学^{ていがく}やそのほかの学問でもギリシアのものを模範^{もはん}と考えたのです。さらにローマ人たちは、ギリシア人が持っていた神話も、ただ神様などの名前の大部分を、ギリシア語からラテン語の呼び方に変えただけで、そっくりそのまま自分たちのものにしてしまったのです。

このようにローマ人によっても、自分たちの神話だと考えられ、ギリシア語だけでなく、ラテン語でも語られるようになった、古代ギリシア人の神話のことを、ギリシア・ローマ神話とよんでいるのです。そのため、そのなかでは、ちよつとやっかいなことです。多くの神様や英雄^{ふゆう}たちは、ギリシア語とラテン語のふた通りの、別の名前を持っています。本書で使っているのは、全部、もとのギリシア語の名前のほうです。

ギリシア・ローマ神話は、その後ヨーロッパの文化のなかにも、受けつがれました。ヨーロッパやアメリカの人たちは、今でもギリシア・ローマ神話を、キリスト教と共に自分たちの文化の土台にした、とても貴重な財産と考えて、大切にしています。

美術をはじめ、文学や音楽あるいは映画など、芸術のどの分野でも、ギリシア・ローマ神話を新しくえがいたり、物語ったり、またそれからヒントを得たりした作品が、ヨーロッパでは昔から多く作られてきましたし、今もヨーロッパやアメリカで、たくさん作られています。そして下じきにされたギリシア・ローマ神話の物語を知らないままで、これらの名画や名曲、名作を鑑賞^{かんしょう}しようとする、わたしたちはしばしば、それこそまるで、くつの上から足のかゆいところをかいているような、物足りなさともどかしさを、感じさせられてしまいます。

それだけではありません。一九六九年に初めて人間を乗せて月に着陸したロケットの名前が、アポロ一号だったことを、ごぞんじの人も多いでしょう。この名前はもちろん、初めにあげたハンサムな光と芸術の神、アポロンにちなんでつけられたものです。アメリカやヨーロッパで作られる品物には、このほかにも、乗り物や兵器から日用品にいたるまで、ギリシア・ローマ神話の神様や英雄の名前をつけられたものが、たくさんあります。これはもちろん、ヨーロッパやアメリカでは今でも、そのような名前のついた品物が、だれにでも自然に、神話の神様や英雄のようにすばらしく魅力的であったり、強力であるように感じられてしまうからであるにちがいません。このことから、ギリシア・ローマ神話が今もヨーロッパやアメリカの人たちにとっても愛され、自分たちの神話として大切にされて、本当になじみの深いものであり続けていることが、よくわかります。

こうしたことから、ヨーロッパやアメリカの人たちの文化と、ものの考え方をよく理解しようとする、わたしたちはどうしてもギリシア・ローマ神話を知る必要があるのです。この本は物語をよりわかりやすくするために、「まんが」という形式をとりました。話を視覚化することによって、おとただけでなく、小・中学生にも入りこみやすいものになっています。さらに本書は、ギリシア神話をくわしく正確に見せ、語っており、信頼できる手引きとなっています。これを持って、すばらしい未知の世界発見の旅に出て、ギリシア神話通になってください。

ギリシア神話主要地図



トロイア戦争 目次

神話と美術

1

はじめに

6

第二章。パリスの審判

じんぱん

12

コラム トロイアの戦い

23

第三章 トロイア遠征軍

えんせいぐん

35

コラム イビゲネイア

58

第三章
アキレウスの怒り^{いか}

66

第四章
アキレウスの死

コラム アキレウスのかかと

140 127

第五章
木馬

146

コラム アガ멤ノン家の悲劇

184

神話と星座

190

神話と遺跡^{いせき}

192

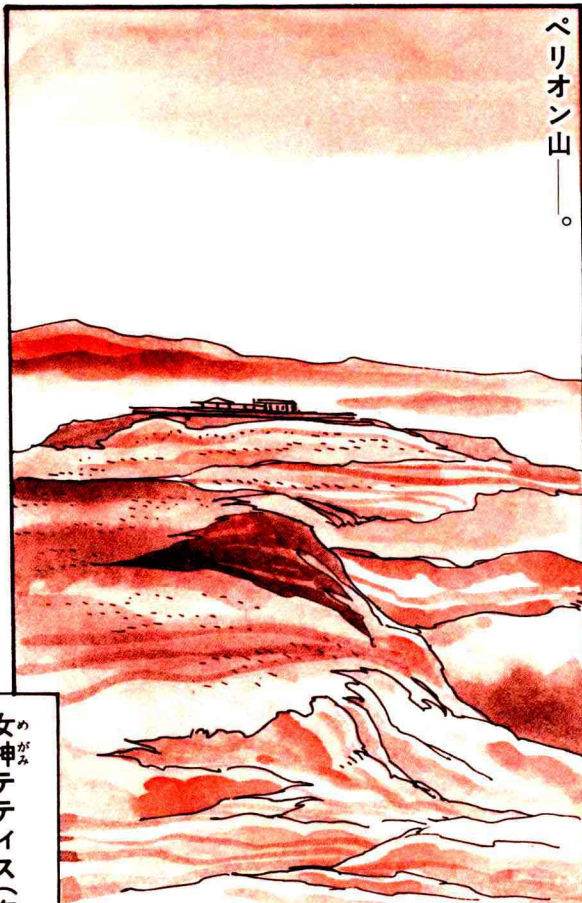
神話と文学

194

パリスの審判



女神テティス（海神ネレウスの娘）と
テッサリアのプティアの王ベレウスの
結婚式が行われ、
不和の女神エリス以外の
すべての神がみが
祝福にかけつけていました。



ペリオン山



テティス

ベレウス

◇ペリオン山 テッサリア地方（ギリシア北部の地方）の南部にある山。

プティア テッサリア地方にあった都市。



テティスの美しさは
相変わらずだな。



かつておまえと
うばいあいをした
こともあった。

神がみの王・ゼウス



だがテティスが夫より
すぐれた子を産むと
予言されていたので
我われは用心のため
結婚をあきらめ、
ペレウスが見事
彼女の愛を勝ちとった。
まずはめでたいことだ。

海の神・ポセイドン

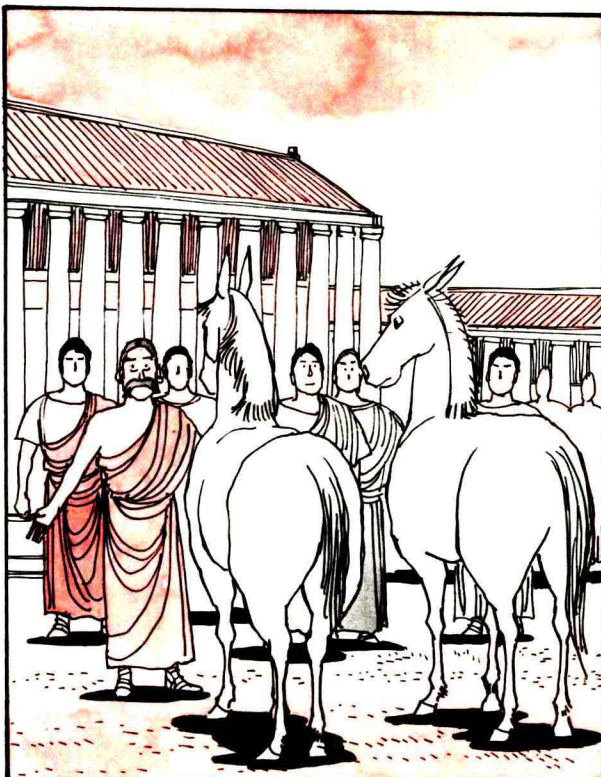


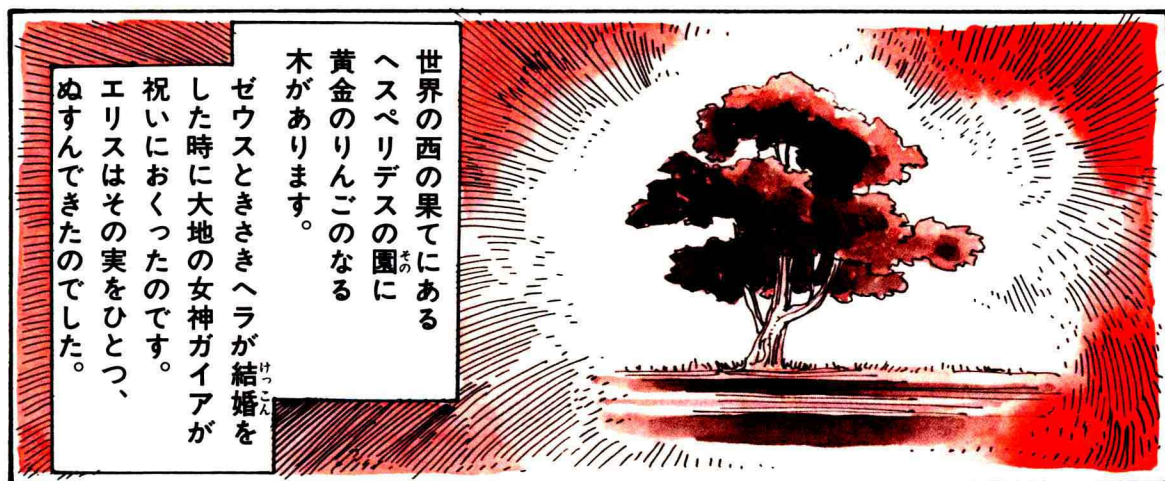
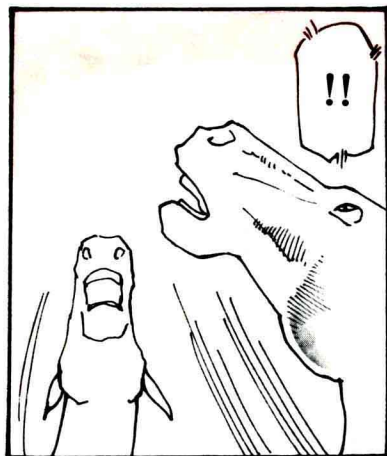
まことに…ペレウスの
ほれこみようはすごかった。
テティスがなんに姿を変えて
にげようとしても
決して放さなかったとか。

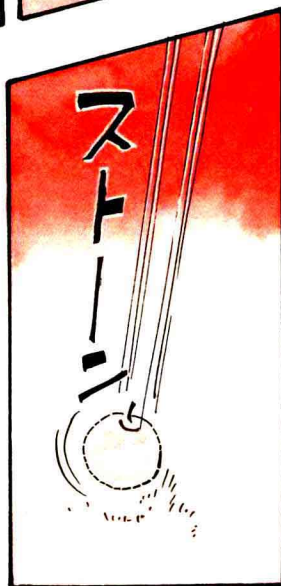
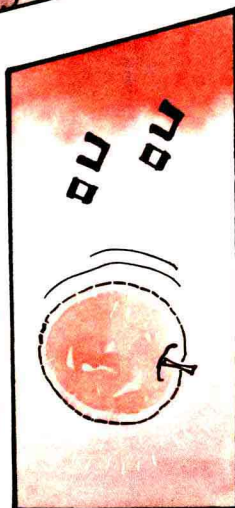
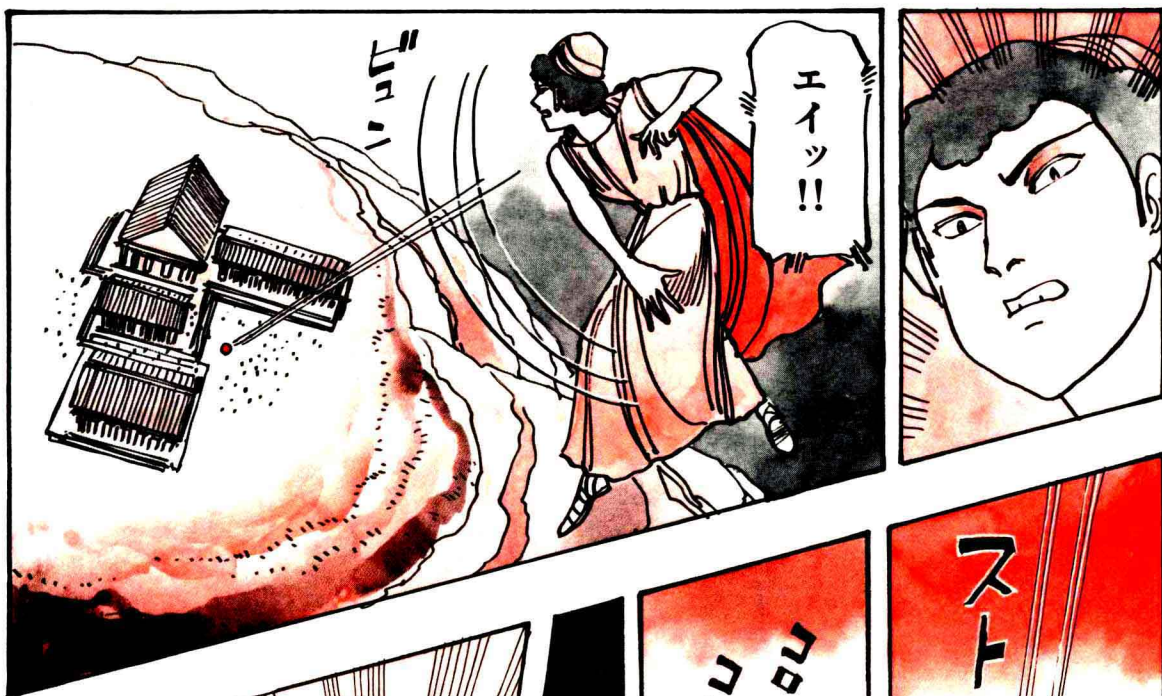


わたしは
結婚の祝いに
二頭の神馬
バリオスと
クサントスを
持ってきた。
人間の言葉を話す
かしこい馬たちだ。

それはよい。







黄金のりんごだわ。

